国体岩盤沈下

～地下抗・筑豊より
第２幕　激動篇

大島智広

Kinokopress.com

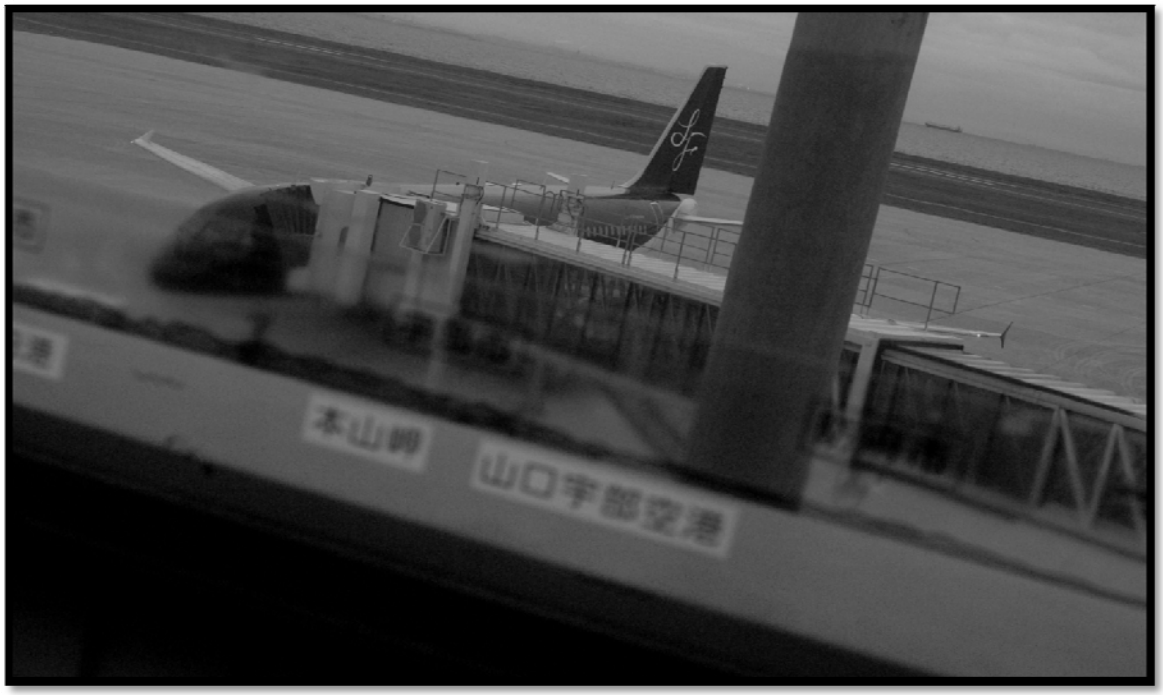
国体岩盤沈下～地下抗・筑豊より　第２幕　激動篇

写真・文　　大島　智広

写真は北九州市小倉城。北九州市は政令指令都市であり、人口100万人を2005年度に切る。全国政令指令都市中、高齢化率最多。旧・工業地帯。平成２０年度末現在で年間資産は3兆9,228億円、資産形成のために１兆4,906億円の負債が生じており、資産に対する割合は38.0%。平成20年度の連結資金収支計算書によると、経常支出における社会保障費が3366億7689万円とあり、全体の54%を占め、支出の半分が社会保障費に費やされる。福祉・医療費の増加は平成12年918億円に対して平成21年1284億円となり約40%の増加。北九州市立若松病院は2005年度より患者の減少等の理由により2008年度に内科医が全員退職。総合病院の態を成さず、同市の産業医科大に売却・譲渡。政令指令都市の公営の総合病院が売却・譲渡の対象となることが、いったい、何を指すのだろうか？

市内はモノレールが走り、昔ながらの旦過市場をも横切って走ります。市場内は、現在も中々の盛況ですが、昔は人の波に押されながら市場を通っていたくらいの客足があったそうです。商店街から駅前百貨店街の駅ビルに至るまで、テナントが入っており、北九州市・内外の購買力を集めているようですが、若い人間ほど、このモノレールの始発点のある北小倉駅から電車で、1 時間以内で到着可能な福岡市で買い物をする傾向があるようです。飲食店も多く密集競合地区なのですが、筆者が行ったことのある、てんぷら屋さんでは店主のお子さんも小さく、現・店主が親御さんの跡を継いで店を切り盛りしていて大変らしく、「三時間しか寝てないんですよ。」とおっしゃられてました。先述の旦過市場内の老舗の肉屋さんは 365 日休まずの営業で店を維持しているそうです。

昔からの工業地区では取り壊し、空き地も散見でき、大手の工場が気を吐いている様相に目が行きがちですが、やはり、製造業も規模の劣る事業所となると廃業・撤退の憂き目に合わざるを得ず、かつてからの労働者の土地である所の北九州市も、こういった外郭からの縮小に苛まれ、産業力の低下は否めない様子です。結果、産業の縮小が労働人口の流出に繋がり、現役世代の社会動態の転出が、若い、先のある世代から増加せざるを得ず、それが少子高齢化の大きな一因になっていると思われる。北九州市は、その工業力から、先の大戦では原爆投下候補地であったわけだが、原爆投下日の北九州上空の天候不良、視界不良のため、別の候補地であった長崎市への原爆投下となったことは有名ですが、戦後、八幡製鉄所に勤めていらっしゃった方の御話では、八幡製鉄所に東洋一の鉄の加工機材があったため、これを GHQ に接収されることを恐れて、その機材を隠そうとしたこともあるぐらいに、北九州という土地は産業力を誇っていたのですが、それも昔のこととなりました。



北九州市近郊に苅田町という町があり、ここに工場を誘致し、北九州発で世界企業となった日産もここに工場を置き、その他、豊田、宇部セメント、麻生セメント、九州電力等の工場もひしめき、北九州の工業力を引き上げる効果となっておりましたが、昨今の自動車企業の不祥事における人員削減や、公共工事の落ち込み等の原因によるセメント需要の落ち込みにより、生産力が下がり、苅田町にある北九州空港も近年、醸成されたのですが、日航の会社更生に当たって、便数の削減対象候補に挙がっているためか、福岡県知事、北九州市長、空港関係者が中央に陳情に行き、これ以上の空港の機能低下を防ぐ方策を練っているような現状が今現在の北九州にはあります。北九州地区の不採算を改善するための新造成地区が減退した場合、太平洋ベルトの西端の勢いは、再び、低下せざるを得ないようです。

以上のような悲観的な観測が続くと、活路を探さねばならず、それは新たなる産業ということになるのでしょうが、北九州市北西部に響灘という、北九州市民もあまり知らない開発地区が御座いまして、ここに風力発電の風車が何頭も潮風に揺れて立っております。ここも、昨今の埋め立てによる造成によって出来た開発地区なのですが、風力発電所の近くの科学館の方によりますと、海外からの視察の方もおられるそうで、その発電量も年々の開発に応じて大きくなっているように思われますので、新規開拓投資先を地方の悲観を拭うために挙げてみるとすれば、どうしてもこういった資本と行政と研究機関の産官学の一致を見なければ、投機性の高い事業は民間単独では難しく、これは、ひとえに研究者の技術の向上と、行政の意志と信用による開発費の収集・投資が肝要になっていくと思われます。採算ベースに乗るまでの開発費くらいは、こういった文章で声を上げ続けることで投資を呼び込める環境作りに繋げられたら幸甚であり、現地民としての切実な悲願でもあります。

上の写真は北九州に隣接する筑豊圏内の１カットです。裏はパチンコ屋で手前が駐車場と消費者金融のＡＴＭです。福岡から筑豊に向かうバイパスを筑豊内に入って、すぐに降りるとすぐ、あります。「バイパスを降りると、そこはパチンコ屋だった。」と圏外の人には冗談で言っていますが、賭博と金貸しがカモを型にハメるわけで、あまりに見たままな筑豊なのです。下は筑豊内の自治体の裁判所の正面一階ですが、入って、いきなり、立て看板に「破産、サラ金等のあなたの借金についての手続き・相談は、一階（③）番窓口です。」とあり、裁判所の超・アリーナ席が債務整理、自己破産のコーナーというのは個人の資産管理の具合がいかほどかが伺い知れ、空恐ろしくなります。

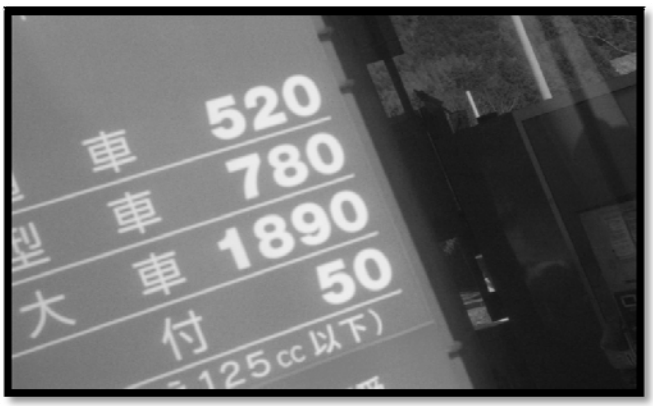
なぜゆえに、いきなり筑豊のパチンコと消費者金融の話をしたかと申しますと、先述の財政難な北九州市で生活保護の老齢加算に纏わる訴訟が起きました。これは北九州市で高齢の方々が生活扶助や医療扶助のために生活保護申請をしておりまして、扶助額は受給者が高齢になるにつけ増額される「老齢加算」という制度になっているのですが、社会保障費が膨張しすぎている北九州市・行政側が「保護費を出してもパチンコ屋で使う。」などという理屈で「老齢加算」分の支払いを拒否したのに対して、受給者側が団体を組んで行政を相手どり訴状を起こし勝訴したという一件が上がり、これが国会でも取り沙汰されまして、筑豊という土地は旧炭鉱地・特有の生活保護者が多い土地で、こういった一件がそのまま生身の情報として筑豊内で取りざたされるのがこの段の説明内容となります。

もちろん、全国的に見ても生活保護申請者が増えている昨今のことですから、これを他人事と見られず、高齢者が寿命を延ばし預金を使い果たし、行政の財源難から年金の支払いが仮に滞り始めたとしたら、生活保護申請はさらに全国的に増加する懸念があるわけで、この一件を、重しと取れない方はなかなかに地方の悲惨な状況を御理解されていないのではないかと思われます。

生活保護制度というのは社会保障制度のボトムにあるわけですが、社会保障費の財源難から、生活者の切り捨てを行うとしたら、この部分が有力な候補になる懸念もありますので、あまりに先読みの感があるやもしれませんが、保護申請を打ち切られますと、餓死、孤独死の率が上がりますので、今、現在でも毎年の餓死者・孤独死者が増加傾向を見せていることを鑑みますと、これは看過することが出来ない事例であります。（百歳以上人口の発見困難）

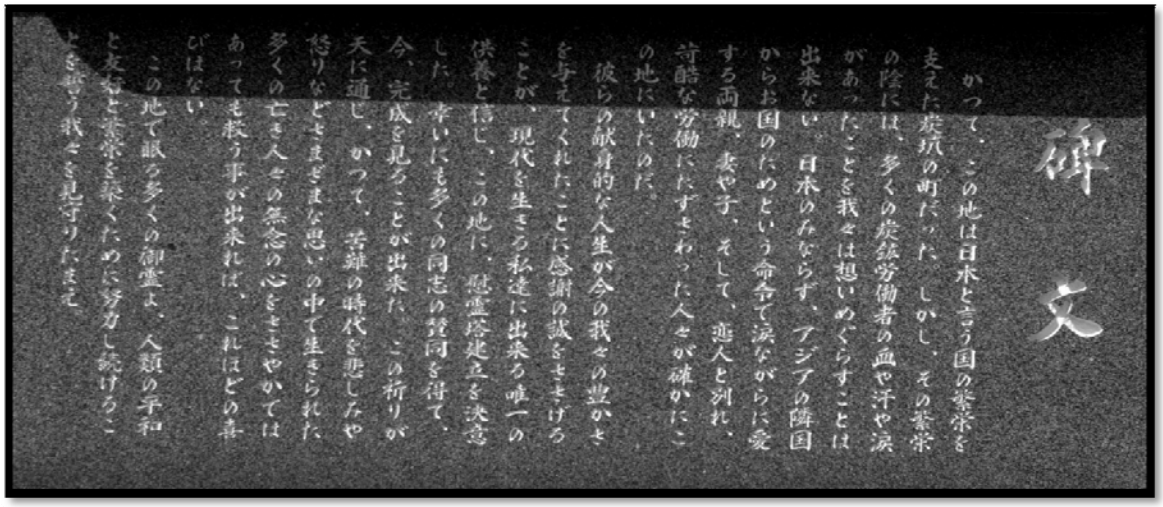
かてて加えますと、2015 年問題。団塊の世代の高齢化による社会保障費の増額と行政の財源の圧迫という常識が近年中に問題化することが予測されておりますので、団塊の世代の方で資本に余力の無い方が、追い込まれて生活保護申請、というケースが頻発化しますと、日本の財政難、社会状況はさらなる悪化傾向を見せることであろうと危惧されます。

一方の公営賭博の筑豊圏内にあるオートレースはパチンコに客を取られ収益減。夜間営業、サテライト営業とやっておりますが、実際は特別会計枠の公費・税金で存続しております。公営賭博場周辺の住民であれば、ほとんどの人間が知っておりますが、公営賭博で収益を上げられる賭場は全国でもわずかであり、特に地方にある賭場の存続は公金によって賄われ、その理由は、賭場周辺に事業にブラ下がっている人間を食わせるためであり、これを政府・行政が事業仕分けの対象に入れられれば政府の本気度が測れると思われます。



筑豊圏内に 24 時間営業の大型郊外店の集配所があるのですが、ここの人件費の叩き方も有名で、地元の人間に聴くと、「あそこに集配所が出来たから、仕事が増えると思ってたら、中国人をかなり入れてるみたい。」とのことで、そのダンピングは筑豊だけに炭鉱時代の強制連行と強制労働を思い起こさせるようなことをやっているようなので、下手をすると労働監督局以前に国際問題に発展するのではないかと危惧されています。

一番、上の写真が筑豊内の集配センターでございまして、そこから一番、物資が移送されていく先が福岡市方面になるのですが、上から二番目の写真のように雪の中、婉曲のある下道を走らされていたのがつい最近までで、その所以は、筑豊と福岡市を結ぶバイパスの料金が上から三番目の写真のようにあったからですが、高速幹線道路の無料化の恒久化が可能か分かりませんが、これは深刻な労働問題です。一番の下の写真は筑豊内の同事業所の店舗ですが、深夜帯になりますと、客が写真のようにまばらになり、内部のレジをひとつしか開けていないのですが、それでも営業が継続し、収益が上がるのが離れ業に近く、やはり小売流通の大型郊外店に勤めている筆者の親族に話を聴きますと、その方は管理職なんですが、売場面積 1000 ㎡に管理職 3 人で残りはパートが数十人の体制で営業しているらしく、しょっちゅう、労働監督局の監査を受けているらしいのですが、その日だけ営業時間を短縮して仕事が緩やかになるんだそうです。こういった大型郊外店のやり方が未来永劫、続くようであれば労働者の勤労意識が減退するのは明白で、さらなる労働者の権利保護の動きを行政は取らざるを得ない。



碑文

かつて、この地は日本と言う国の繁栄を支えた炭坑の町だった。しかし、その繁栄の陰には、多くの炭鉱労働者の血や汗や涙があったことを我々は想いめぐらすことは出来ない。日本のみならず、アジアの隣国からお国のためという命令で涙ながらに愛する両親、妻や子、そして、恋人と別れ、苛酷な労働にたずさわった人々が確かにこの地にいたのだ。

彼らの献身的な人生が今の我々の豊かさを与えてくれたことに感謝の誠をささげることが、現代を生きる私達に出来る唯一の供養と信じ、この地に、慰霊塔建立を決意した。幸いにも多くの同志の賛同を得て、今、完成を見ることが出来た。この祈りが天に通じ、かつて、苦難の時代を悲しみや怒りなどさまざまな思いの中で生きられた多くの亡き人々の無念の心をささやかではあっても救う事が出来れば、これほどの喜びはない。

この地で眠る多くの御霊よ、人類の平和と友好と繁栄を築くために努力し続けることを誓う我々を見守りたまえ。

列島

半島

大陸

上記に列挙した三つの碑は列島、半島、大陸から、刈り集められ、炭鉱労働という最も過酷で薄給な労働を耐えぬき死んで行った人々を祭った碑です。そして筑豊という土地は戦後史上最大の労働ストが起きた土地でもあります。今現在の日本も労働者と資本家の格差が懸絶化して参りましたので、秋葉原の連続殺傷の加害者のような、地方で非正規労働を耐え老後の保障が薄い、という人間が起こした惨劇を今の社会的無関心な若年層が一斉に気づき始めれば似たような事件が頻発し、それが労働三権を使えば団体訴訟の機運が生まれると思われます。

一度、筑豊は飯塚市の商店街が火災に見舞われ、店舗数店が全焼したのですが、その時の行政は一度、焼け出された人間に見舞金を三万円ほど提供したのみで、議員や職員は動かず、例えば、市営住宅を貸し出したりしたのみで、火災復興委員会を設けて復興に協力したわけでもありませんでした。結局、焼け出された人々は、親戚が遠方におられた方は、他の知人・隣人の空いた部屋を借りて生活していたような状況であったらしく、その後、金融機関の融資によって営業を再開したそうですが、客足は薄く、年齢層が高く、購買力が薄い状態で、高齢者層が買い出しに来る程度だそうで、いわゆるシャッター通り化が進んでおりまして、これは看過できず、地方の再興が急務であることを痛切に知るに及びました。しかし、地方の自助努力としましては、筑豊という土地は炭鉱の歴史、重労働者の歴史が御座いまして、炭鉱労働に際しまして、大量の死傷者を出したことから、福岡県では有名なのですが、脊椎損傷センターというもの労働者福祉法人でございます。元来は炭鉱労働で腰や背骨を痛めた方々のための施設だったと思われます。そこは炭鉱の歴史以来、整形外科及びリハビリ施設として長らく機能しており、これと併せて、今、現在では、車椅子テニス国際大会という国際的な規模の、身体的にハンデのある方々のスポーツ大会がございます。今現在の高齢化率の上昇、及び、九州では福岡に人口が集中しているのですが、福岡県内でも福岡市に人口が集中しており、同県内の政令指令都市の北九州市が全国指令都市中、最も高齢化率が高いことを併せて鑑みるにつけ、この筑豊圏内に介護度の高い高齢者を預かる施設を増設する動きを付けることに、筆者は今、尽力しております。なぜなら、筑豊という土地は地理的に福岡市、北九州市、二大政令指令都市と等距離にあるからです。

そして、こういった駄文・短文などは紙にする必要はなく、電子化対応のみで十分なわけで、電子書籍等を最も読まれる層として今後、考えられるのは、現在の出版状況および、地方の年金暮らしの高齢者の方の書籍代や、地方では高齢者の移動手段に事欠き、民間のバス会社の路線を行政が引き継いで細々と運営していたりいたしますので、こういった高齢者にこそ、無料あるいは安価な、そして移動を必要としないで購入できる電子文書・書籍の類を読んで頂きたいのです。

この部分は出版不況にさらされている出版社および印刷会社の方々にも申し上げたいことで、そういった出版社・印刷会社は中央に集中していることを鑑みれば、その方々が地方の読者層を開拓する絶好の機会が今現在進行していることを認識して頂きたいのです。そして、その出版・放送の中央一極集中により、地方の状態が、「地方の疲弊」という一語で、片づけられていることが、中央と地方の最大の格差、不平等に繋がっていると愚考いたします。その様は、病で苦しんでいる人間が言いたいことも言えずに、うち震えているかのようです。

これは、活字文化、および、日本人として、日本および日本語を守る必要性から、その日本人としての責務から、言語の幼稚化をこれ以上、蔓延させないためでもあります。

今現在の児童が挨拶語のように「死ね。」「死ね。」と言い合う中、数年前の首相は「美しい国」と言い、前・首相は「友愛」と言い、この官民の言語のズレの著しさが、国内の意志疎通の麻痺傾向を如実に現わしていると思われます。「言葉を選べ」というセリフはございますが、本来は逆で、「言葉ほど人を選ぶものは無い」というのが本筋だと思われます。

「世界の中心で愛を叫ぶ」というタイトルの小説が 90 年代に売れ、映画化までされましたが、90 年代の日本経済の斜陽と、その通俗小説による社会現象の、この乖離。これは、後世に説明するのが恥ずかしいのです。

上の写真はオートレースのナイター状況であり、下の写真はその駐車場のペンペン草の生え具合です。2010 年 8 月現在です。虚実背反・乖離のダイアモンドレースです。客は無いが公金を入れてでも営業をする、しかし周辺地域の過疎・高齢化は容赦なく進む、という状況です。こんな子供騙しが続く限り、経済大国・政治小国の日本は変わりません。法人税が高止まっていますが、それを続けると有能な個人・法人ほど国外に活路を求め、日本国内は高い法人税・消費税の、法人・個人に対する二大負荷税に国民が苦しみ続けることになります。対するに日本国債が、歴史上、類を見ない低率で利率は下げ止まっており、この背反・乖離が政治不信の根源にあるのですが、それを可視的に説明するならば、見たくれの信用と中身の信用は上の写真と下の写真ほどに天と地ほどに矛盾するのです。ドル箱営業はもう無理ですよ、公金中毒の皆さん。その他の良識ある日本国民の皆さん、御理解賜りたい。

「（書き下し文）皇国の興廃はこの一戦にあり。」

（福岡県・津屋崎・東郷神社の石碑より　文・秋山　実之　）

北九州市・行政は競艇維持費用に“特別会計”の枠で公金を流用しております。しかし、老齢加算の訴訟においては「どうせ支給してもパチンコにでも使ってしまうから。」と本気かどうかは定かではありませんが、行政は支払いを断り、しかし、訴訟では敗訴し、国会でも、その事例が取り上げられました。この矛盾から言うと行政の態度の理不尽さが酷いことに気づかされると思われます。それと、もう一つ、競艇に流用している特別会計分を、国会でも「ヘルパーさんの給与の引き上げを。」と声が出ていますので、その人件費分に“一般会計”で計上されるべきであると。公・行政のやることは“公然”としなければならないと思われます。それでいて、介護士の離職率は高く、この就労人口を統合すれば、法・政治・裁判は数の勝負ですから、勝訴できます。上記の老齢加算訴訟で行政を相手取って、告訴側が勝ちを収めており、その人数はヘルパーさんよりは“ずっと”少ないです。ヘルパーさん・介護士側が訴訟を起こせば勝ちます。数の上では申し分なく勝訴できます。長々と国内の事を申し述べて来ましたが、国内外に目を凝らすとアメリカ本土では米軍が財政難により縮小し、国外基地の負担分を増やす意向を示しており、その一つを含む沖縄県の県知事選に、基地を受け入れている宣野湾市・市長が立候補の意向を示しました。国内外の矛盾を統合できうる所見が、今現在の日本国に必要なのですが、この状況を分かり得る人間が政権与党に不在のようです。政党の首長に田中角栄の遺伝子を最も引き継いだ前時代的な小沢一郎氏が擁立されるような動向が見られます。世界経済は、ドル安円高の景況感。90 年代に通貨危機の起きたタイで今現在、クーデター傾向・進行中の模様。応答リンク賜りたい。　　末筆無礼・重畳至極

国体岩盤沈下～地下抗・筑豊より 第２幕　激動篇

大島智広

2010 年 9 月 10 日第 1 版発行

© Tomohiro Oshima 2010　kumo125[a]yahoo.co.jp　[a]を＠に変換してください

発行所　kinokopress.com

代表　森岡正博

所在地　大阪府堺市中区学園町１－１　大阪府立大学人間社会学部

　倫理学研究室内

連絡先　www.kinokopress.com 内の連絡先に問い合わせ

本文レイアウト＋デザイン　大島智広

本書およびＰＤＦファイルの無断複写は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。

ＩＳＢＮ　なし